



## どこからきたの？

わたしの駐車場のフェンスと車止めの間に土がたまっていて、まっすぐにスマレが咲いていました。え？今年も咲いたの？という感じで毎年同じところにきれいに並んで咲きます。そこで、すみっことかすきまに顔を出している花を調べることにしました。出演者たちは学校や遊び、おけいこの行き帰り、ずっと下を向いて歩いて隅っこやすきまに咲く花をさがしました。そしてその花を覚えて、名前を調べました。そんな花たちと、地球ができたときからいる石との会話を踊りにしています。「どこからきたの？」花たちは知っているのでしょうか？音楽は、ベートーヴェンのピアノソナタとヴァイオリンソナタを使用しました。

藤田佳代

石とスマレとチョウのおはなし

谷川結香 (小5)

私がおどっている石は、ずっと一人でいましたが、ある時、うすむらさきスマレ、白スマレ、むらさきスマレがさきました。「どこからきたの？」ときいてみると、「お空だよ」と言っていました。そこへ、ツマグロヒョウモンというちょうのような虫が現れました。すると、石につかまりさなぎになりました。スマレたちがまほうをかけてくれ、無事にちょうになり飛びたって行きました。しかし、スマレたちがかれていき、ツマグロヒョウモンたちもいなくなってしまいました。石は、一人になってしまいました。また来てね。

石とユウゲショウのおはなし

山下柚杏 (中3)

今回、初めてひとりでステージに立つ時があるので緊張するけど最後雑草たちが枯れていき、ひとりになる石になりきって頑張りたいです！

石とハルジオンとキジのおはなし

藤原みのり (小2)

ごろごろころがる、強い小石になりたいと思います。楽しく、すばやく、かろやかなおどりを、おきやくさんに見てもらいたいです。

石とカタバミとチョウとアリのおはなし

坂本まつり (小4)

カタバミにやまとシジミというちょうとアリアがあつまってきます。石も上のほうからころがってきました。石が「どこからきたの」とみんなにききました。すると「しらないわ」と答えました。秋になるとみんないなくなってしまって、石はまた一人ぼっちになってしまいました。

石とオオマツヨイグサとホタルのおはなし

柴田茜音 (小5)

私はホタルとオオマツヨイグサとお話しする石の役をします。最初に石の役をもらった時はあまり踊らないのかと思っていました。でも踊ってみるとたくさん踊れたのでうれしかったです。お話しをするように踊るのがむずかしかったけどたくさん練習をしてできるようになりました。本番は今まで練習した事を出し切って楽しく踊りたいです。

石とヒオウギのおはなし

板垣祐三子

夏に咲くヒオウギは葉が剣状で扇のように左右に開きます。「どこからきたの？」と石は聞かれました。「ずっとここにいます。」真っ赤なドレスで扇を持ったヒオウギと踊ります。

石とタカサゴユリのおはなし

佐藤茉莉

6人が演じるタカサゴユリの中で、一人石を演じるということにプレッシャーを感じますが、柔らかな花とは違う石の質感が表現できるよう頑張ります。今回一緒に踊るメンバーは、私より身長が高いですが、年齢と踊りにかける情熱の大きさは負けていません。存在感のある石を目指して本番は踊ります。また今回は大好きなベートーヴェンを使った踊り。今まで知らなかった曲を知ることでき、もうひとつの趣味であるピアノでも演奏できるようにもなれたらなあ…と思っています。最後に余談になりますが、のり子先生から研究所通信に載せる文章を考えて欲しいと言われ、文章を書くのが苦手な私はどうしよう！とパニックになるだけで何も書き出せず。今週中ということは日曜日まで大丈夫だと思い込み、日曜日の20時になってようやく重い腰を上げました。が、苦手なものは苦手！！ゴロゴロしてる暇そうな妹に助けを求め、日付が変わる前に提出しました！遅くなってごめんなさい！そして8割くらい書いてくれた妹よ、ありがとう！！

石とカワラナデシコとトンボのおはなし

向井華奈子

カワラナデシコとアカトンボのリズムクラスのみなさんと踊ります。群生するカワラナデシコのそばに転がる石です。その石にそっと、とまるアカトンボ。リズムクラスのみなさんも毎年毎年の発表会を積み重ねて、今年はいつも以上にしっかりと仕上がったように思います。リズムクラスのみなさんと踊れる滅多とないこの機会を大切に。本番が楽しみです。

石とフヨウとスズメのおはなし

高谷歩夢

私の踊る石は下から生えてきた芙蓉におされて転がります。そこに小さな雀が遊びにきて、とても楽しく過ごすけれど、最後は皆が帰ってしまって寂しくなってしまいます。可愛い雀と優雅な芙蓉に囲まれておどります。

石とタマダレのおはなし

吉川菜々子 (小5) 岡村春花 (小6)

このおどりは、石とタマダレのおどりで。この石たちは何億年も友だちを待ち続けました。すると、タマダレという白い花が、石たちのまわ

りに咲きました。石たちはタマスダレと楽しくしゃべったり仲良くしました。でも、タマスダレはかれて散っていきます。このおどりの見どころはタマスダレと石が別れる場面です。ここで、タマスダレと石は別れを悲しみます。それを踊りで表現します。また、回るときにタマスダレの衣装がきれいなのでそれも見て下さい。

石とノブドウのおはなし

村上美羽（高1）

今年で4回目の発表会で、石の役を踊ります。私はノブドウの場面の担当です。年の離れた小さい子達と一緒に踊るので、皆をまとめられるように頑張ります。

## シンカイとぼくのはじまりの祭り

福島県飯舘村の居住困難区域となったある場所で、裏山の祠をかこんで住民たちが最後に花見をした、という文章を読みました。花見が終わり、一家族が去り、二家族が去り、そして祠だけがぼつんと残された、とありました。何百年何千年にもわたって築かれてきた、人と神さまの関係を思い、去っていく人と残された神さまの気持ちを想像しました。そして、もう一つ思い出したことがありました。なにげなくもれ聞いた会話。東日本大震災の直後のことです。「八百万の神が福島原発に向かったらしいよ。」この話は、信じるとか信じないとか、ではなくて、どうしようもなく、なすすべのない中、なにもできないでいる人間の最後に残された祈りだと思いました。ふたつのエピソードを結びつけて、「シンカイとぼくのはじまりの祭り」をつくりました。神さま=守りとしました。

菊本千永

水の守りとの出会い

坂本のより（中2）

雷に打たれたぼくをシンカイが助けます。そこへ小さな雨粒さんたちが集まってきます。雨粒さんたちがぼくを私の所へ連れてきてくれている時いつもドキドキしながら見えています。雨粒さんたちが頑張っているので応援していただけると嬉しいです。

水進ものの守りとの出会い

安福玲（中3）

守り役をやってみてとても難しかったです。

私は、水進むものの守りをしました。その代表として今回はイルカが登場しますが他にも沢山の生き物がいます。様々な生き物が住む海の中にある守りを表現できるように頑張ります。今回の発表会では、堂々と踊ります！

土の守りとの出会い

藤井佳子

私は、リズムクラスではじめて、一人で神様の役をします。せんせいたちにおしえてもらって、ここまでできるようになってうれしいです。いいおどりを覚えてもらえるようにがんばります。

石の守りとの出会い

西岡里紗（中2）

初めは宝石の神様が、やってきた人間の僕を警戒して突き飛ばしたりこけさせたりします。ですが、ぼくとシンカイが小さな石と仲良くなり、シンカイにお願いされた神様は警戒心がなくなって神様から僕にブレスレットを渡すというお話です。

地駆けるものの守りとの出会い

田口寧々（高2）

地駆けるものの守りでは、初めにぼくが動物たちに困まれて食べられそうになってしまいます。シンカイが一生懸命、守りにお願いをして、動物たちが食べようとしているのをやめさせます。それからぼくと一緒にお祭りがはじまります。動物らしい動きもたくさんふりつけたのでぜひ楽しんで見て下さい。

地もぐるものの守りとの出会い

清河鈴羽（高3）

地もぐるものの守りの楽曲がとても力強いので、緊張せず堂々と踊りたいと思います。そのためにも、本番までの練習を大切に、本番は楽しんで踊りたいです！

火の守りとの出会い

稲益夢子（大2）

火が静に燃え、力強く燃え移る様子など、様々な姿を現した踊りです。

空飛ぶものの守りとの出会い

菅原那月（小3）

わたしは空とぶものの守りです。人間がとりをさいごの一わにしたので、守りがおこってしまったため、シンカイといっしょに人間のぼくは守りに会いにいきました。守りがおこっているので、ゆるされるまでまっていた。さいごに守りがゆるしをあたえたので、シンカイとぼくはおれいを言い、かえっていきました。

風の守りとの出会い

石井麻子

ぼくとシンカイに美しかった頃の村の風景、春夏秋冬の風を感じてもらおうと想いながら踊りたいと思います。

空巡るものの守りとの出会い

田中葵（小3）

はじめての主役で、とてもきんちょうしています。毎年発表会に出ていたけど、今年は何だかいつもとちがう気がします。自分の役目を考えながらおどりたいです。

天と地つなぐものの守りとの出会い

荒蒔来実（小6）

わたしは、天と地をつなぐもの、虹の守りです。シンカイとぼくが守りを訪れる最後の場面。この後、シンカイとぼくは村に戻り命を育む事ができたのでしょうか。私はわからないけれど、そうであってほしいと思います。また村で祭りができますように。